

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 2014年 11月 20日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

<b>実施団体</b>	
第8回日本緩和医療薬学会年会	
<b>企画名</b>	
市民公開講座 がんと向き合う人のために ～「痛い」を伝えるとき～	
<b>事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)</b>	
学会ホームページ チラシ配布	
<b>当日の実施内容について</b>	
日時(期間)	2014年10月3日(金)午後0時45分～午後2時30分
実施場所	愛媛県県民文化会館 サブホール
参加人数	150名程度
<p>具体的な実施内容：</p> <p>日本人の2人に1人ががんに向き合う時代。                  がんそのものへの治療と並行して行われるのが、痛みや辛さをやわらげる「緩和ケア」です。                  体の痛みをやわらげる薬が次々に開発され、専門知識をもつ医療者も増えています。                  しかし、患者や家族の中には、まだ「緩和ケア」を十分に受けられずにいる人がいます。                  「痛いなんて言えない」「うまく言葉にできない」「医療用麻薬はコワイ」                  本音を医療者に伝えられないのが現状です。                  患者はどうすれば「痛い」をうまく伝えられるのか？医療者はどうすれば汲み取れるのか？                  ご一緒に考える市民公開講座です。</p>	
<b>効果について(アンケートの結果など)</b>	
<p>一般の方にも緩和医療、緩和ケアについて 関心を持っていただくためのプログラムとして通常の講演のみならず、患者や家族としてがんを経験した方から俳句を募集し、優秀な句を表彰する取り組みを実施しました。病気への辛さや不安、周囲の人優しに触れた経験などを五七で表現しそれを公表することで、患者、家族の思いを理解していただくことができたと考えております。</p>	
<b>その他報告</b>	

※公式ホームページ(緩和ケア.net)への掲載について  
(掲載してもよい ・ 掲載しないでほしい)